

横浜市立上山小学校 令和元年度 学力向上アクションプラン

1 中期学校経営方針（1）学校経営中期取組目標

学校経営中期取組目標

学校教育目標実現のため、めざす子ども像「やってみよう つなげよう」

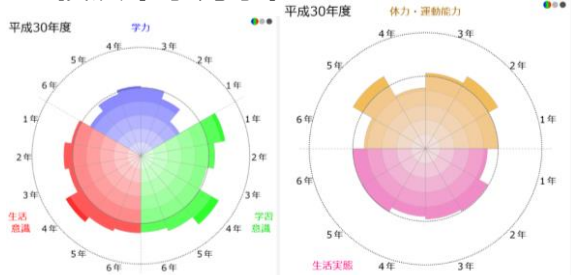
～低学年：楽しむ 中学年：広げる 高学年：高める～の具現化を図ります。

- ・子どもが互いを尊重し、温かさをもってかかわり合い誰とでも共生できる能力の育成とともに、児童指導・児童理解の充実を図ります。
- ・子どもの主体的意識を育て、課題を発見し、課題を解決していく学び方を全教科・教育課程で進めます。
- ・子どもの成長のため、家庭・地域、小中一貫教育推進ブロック4校・他期間と連携を深めます。
- ・「めざす子ども像」実現のため、教師自身が主体的で、互いを理解し支え合い、課題を発見し、課題をともに解決していくことを教師自らが目指します。
- ・研究を深めてきた体育科学学習の学び方を他教科でも生かせることを実証し、主体的・対話的な深い学びから資質・能力を育成し思考力・判断力・表現力を醸成することで自尊感情を高めます。

（2）学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野	具体的取組
確かな学力 (学習指導)	【主体的・対話的で深い学びを通して、課題発見・課題解決能力を育成します】 ①子どもが主体的に課題を発見し、課題解決に取り組もうとする学び方から「生きる力」を高める授業をつくります。 ②重点研の研究主題「授業のつながりで生かす 学び方の構造化」を目指し、研究を深めてきた体育学習の学び方を算数科学習に生かし、教科横断的な学び方を生かし、教科を越えた学び方の構造化に挑み、実践データを重ねて具現化を図ります。
担当	研究部

2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握



（1）学力の概要と要因の分析

全体的に学習意識が横浜市平均と比べるとどの教科においても大きく上回っている。また、学年が上がるにつれて、学習意識が高まる傾向が見られる。学力では、向上が見られる項目もあり、横浜市の平均に近づきつつある。しかし、学年によるばらつきもみられる。

生活意識も高まってきており、横浜市の平均を上回っている。

特に「話したり、聞いたりして人と関わることが好きですか。」という設問では、大きく上回っている。一方で、読書習慣や学習習慣に関しては、横浜市の平均よりも下回る傾向にある。また、「自分にはよいところがありますか。」「だれかの役に立つ人になりたいですか。」という設問においては、市の平均ではあるが他の自己意識の項目と比べるとやや低い傾向にある。

（2）教科学習の状況

- 国語科：横浜市の平均よりも全体的に下回る。特に、「話す・聞く」能力が、低い傾向にある。
- 算数科：横浜市の平均より下回る。領域では、特に数学的な考え方が下回る傾向にある。
- 社会科：横浜市の平均よりも全体的に上回った。特に「知識・理解」が高い傾向にある。
- 理科：横浜市の平均よりもやや高い。「思考・表現」は高い傾向にある。

（3）経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

平成26年度から30年度過去5年間の経年変化の状況から、学校全体として高まっている状況が見られ、特に、学習意識や生活意識は確実に高まっている。中でも、「一日にどのくらい運動をしていますか。」という設問では、年々向上が見られ、30年度は横浜市の平均よりも大きく上回る傾向にあった。子ども達の運動への意識が少しずつ高まってきたものと思われる。

また、「ノートをていねいに工夫して書いていますか。」や「自分の考えを発表していますか。」という設問では、少しずつ向上しており、横浜市の平均よりもやや上回る結果となった。発表意欲は学年が上がるにつれ、高まってきている。国語科の学力層とのクロス集計をみると、学力の高い・低いに関わらず、発表している傾向が見られた。さらに、ノートを工夫している子どもは学力が高い傾向が見られる。

経年変化の状況から、引き続き意欲が高まる取り組みを続けていきたい。さらに、学ぶ楽しさに気付く授業づくりを行い、自ら学んでいこうとできるような「しかけ」づくりを行っていきたい。

3 令和元年度 学年・教科等としての具体的取組

1 学年

- 経験したことを伝える文章や紹介する文章を書いたり、対話をしたりする場面を位置付ける。
- 分からないこと、詳しく知りたいことを尋ねたり、気持ちを表情や態度、言葉で表したりしながら語彙を増やすように指導する。
- 身近な生活場面と学習内容を関連付けた単元構成を行う。

2 学年

- 生活科等で、体験を通して自分の生活について考えられるよう報告する文章や説明する文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに話し合いをする場面を位置付ける。
- 大事だと思った点を確認めたり、関連した情報を提供したりしながら話し合うように指導する。
- 自分の経験と結び付けて、感想や考えをもつように指導する。

3 学年

- 社会科等で見学・調査したことを説明する文章、記録する文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに、話し合いをする場面を位置付ける。
- 理由や根拠を尋ねたり、まとめたり補足したりしながら話し合うように指導する。
- 列挙したり、順序を付けたりして考える学習を計画的に位置付ける。

4 学年

- 算数・理科等で基礎的な技能を身に付けることができるように、繰り返し問題を解く場面を位置付ける。
- 順序を付けたり関連付けたりして考える学習を計画的に位置付ける。
- 学習意識が高まるように、身近な問題を取り上げたり、解決したりする活動を取り入れる。

5 学年

- 国語科を中心として、生活全般において、「聞く」力を育成する。そのために話の中心を意識して聞く場面を大切にする。
- 社会科や理科などで、調べて分かったことを関連付けながら、まとめ表現する力を育てる。
- 各教科で身に付けた基礎・基本を基にして考え、応用的な課題を解決できるようにする。

6 学年

- 道筋の通った文章になるように、文章全体の構成や展開を考え、事実と感想、意見とを区別して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫できるようにする。
- 話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考え、伝え合う活動を大切にする。
- 友だちと学び合う中で、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的にとらえ検討し、よりよいものを求めて粘り強く課題解決できるようにする。

個別支援学級

- 個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づき、話し言葉、表情、仕草、書き言葉等、発達段階に応じた適切なコミュニケーション手段を積極的に活用する場面を位置付ける。
- 子どもの発達段階に応じて、各学年の取組を参考にし、必要な取組を行う。
- 子どもに応じた分かりやすい情報発信をするなど、言語環境の整備を行う。